

本書は、著作権法で保護されており、無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

## 1. はじめに

本ドキュメントはSolarView Air Cloud Serviceが管理する計測データ等を別システムから参照するためのウェブAPIのドキュメントです。本ドキュメントに記載される概要を以下に示します。

### ① SolarView Air Cloud Serviceの外部インターフェースの仕様

- ・ 1発電所の瞬時値データを取得
- ・ 1発電所の帳票(日報、月報、年報)データを取得
- ・ 1マルチアカウントの瞬時値データを取得
- ・ 1マルチアカウントの帳票(日報、月報、年報)データを取得
- ・ 1発電所の出力制御カレンダーを取得(1日単位、1月単位)

### ② 取得可能な主なデータ

発電所名、発電に関する情報、接点に関する情報、気象信号に関する情報  
発電設備の状態(通信途絶、PCS通信、PCS異常、etc.)

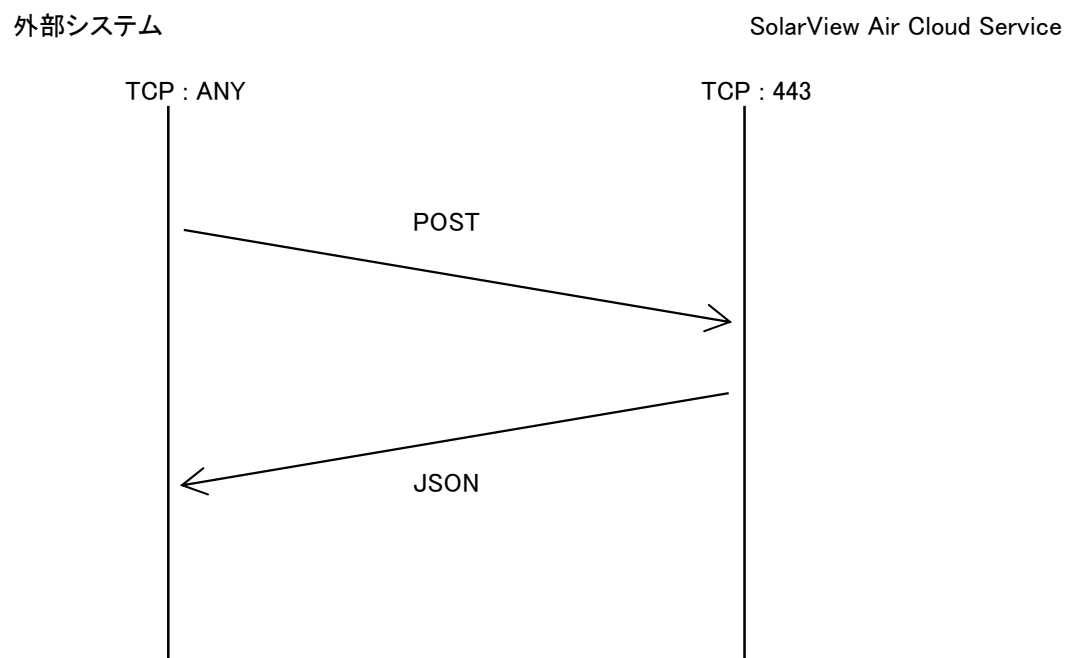
## 1. 1. 用語の説明

- ・ SolarView Air Cloud Service  
当社が提供する太陽光発電計測監視のクラウドサービスです。本ドキュメントの対象となるサービスです。
- ・ サイトコード  
SolarView Air Cloud Serviceで発電所を識別する為の固有の識別子です。
- ・ パスワード(sn\_key)  
ウェブAPIでデータにアクセスする際に必要なパスワードになります。  
サイトコード+パスワード(sn\_key)を組み合わせることで発電所情報にアクセスできます。  
パスワード(sn\_key)は機器を設置した際に送信できる認証情報メールに含まれるものを使います。
- ・ マルチアカウント  
SolarView Air Cloud Serviceが提供する複数の発電所をまとめて管理するための識別子です。  
発電所1毎に発行され、1つのマルチアカウントには最大で40個の発電所を登録できます。  
マルチアカウントに発電所を登録する時には登録する発電所のサイトコードとパスワード(sn\_key)が必要です。
- ・ JSON  
「JavaScript Object Notation」の略で、「JavaScriptのオブジェクトの書き方を元にしたデータ定義方法」のことです。  
テキストベースの軽量なデータ交換フォーマットとなっており、本ウェブAPIでは要求に対してJSON形式でデータを返します。
- ・ 発電所が登録されているサーバ  
SolarView Air Cloud Serviceは複数のサーバから成り立つ分散システムです。  
発電所は複数あるサーバの中の1台に紐付けられる＝「発電所が登録されているサーバ」となります。  
サーバの情報は機器を設置した際に送信できる認証情報メールの中のURLに含まれるものを使います。  
サーバ名は必ず air\*\*.solarview.jp になります。※\*\*は01～99までの数値  
サーバ名は必ず air\*\*.solarview.jp になります。※\*\*は01～99までの数値

## 2. 基本通信仕様

SolarView Air Cloud Serviceとの通信仕様は以下になります。

通信プロトコル : HTTPS TLS.1.2(AES\_128\_GCM)  
Web-API用URL : 1発電所用 [https://air\\*\\*.solarview.jp/json.php](https://air**.solarview.jp/json.php)  
                  マルチアカウント用 <https://air.solarview.jp/jsonMulti.php>  
データ要求 : POST  
応答フォーマット : JSON  
エンコーディング : UTF-8



## 2. 1. ウェブAPIをご利用頂く時の制限事項

ウェブAPIをご利用頂くにあたり、以下の制限があります。制限の範囲内でご利用ください。

### 2. 1. 1. アクセス頻度

発電所からの状態データ(現在値)は1分～5分程度で更新されます。  
その為、発電所ならびにマルチアカウントの状態を取得する場合には最低でも1分以上の間隔を開けてください。  
ただし弊社サーバ負荷の状況によっては1分毎のアクセスを認めないこともありますので**5分間隔以上**でのアクセスをお願いします。

また、日報／月報／年報の取得ですが、こちらは値の更新が1時間毎の為、1時間以上開けての間隔でアクセスをお願いします。

### 2. 1. 2. アクセス元

ウェブAPIの契約では原則として契約あたり1つのアクセス元からの接続となります。  
複数のシステム／装置でウェブAPIのデータを利用する場合には、契約者にてSolarView Air Cloud Service ウェブAPIと値を利用するシステム／装置の間に中間サーバを設け、そこでデータをキャッシュし、SolarView Air Cloud Serviceへの接続はそのキャッシュを使ってください。  
複数のシステム／装置への配信は中間サーバから配信するようにしてください。

